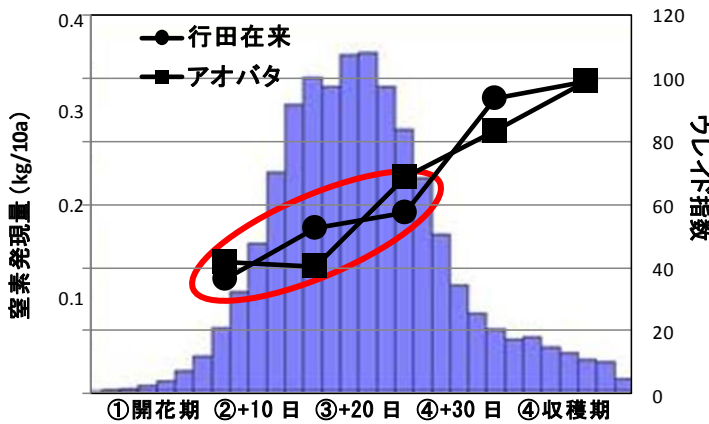


水田転換畑における枝豆用在来大豆の施肥体系

本県では、在来大豆に対する生産者や実需者の関心の高まりから、大豆の特色を生かした生産・加工等が増加しています。

そこで、本研究は在来大豆の根粒活性に配慮した施肥体系を開発しました。行田在来の基肥は、化成肥料で N:P₂O₅:K₂O=3:10:10、中耕・培土時に被覆尿素の LPS40 を窒素成分で 3kg/10a(計 N6 kg/10a) 施肥することにより、追肥作業がしやすい開花前に実施でき、根粒活性を抑制することなく、既存品種並の収量が得られます。

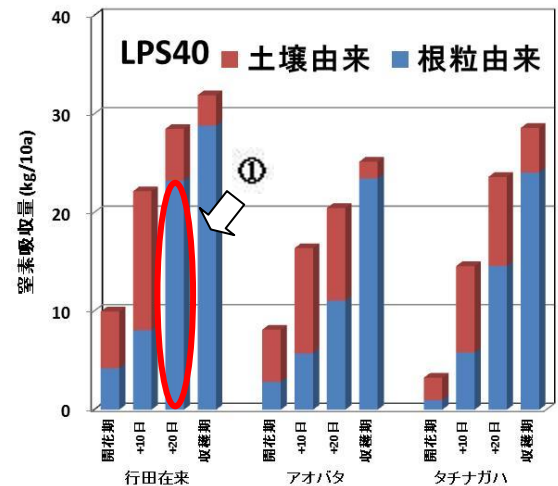
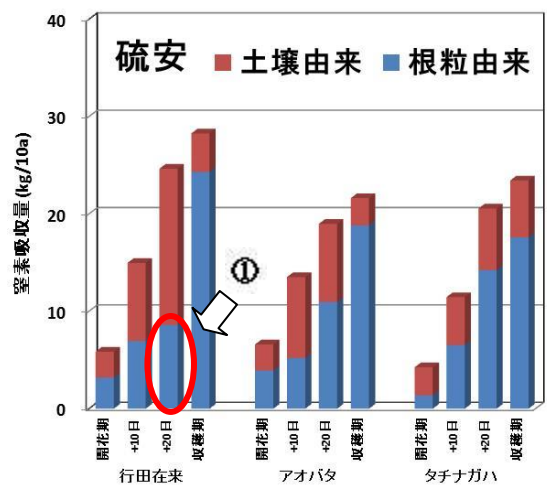


在来大豆の根粒活性(折れ線：ウレイド指数)は、①開花～③莢肥大期頃まで停滞し、被覆尿素の窒素発現量(棒グラフ)は根粒活性の停滞期付近で溶出する。

品 種	肥料資材	主茎長 (cm)	稔実莢数 (粒/株)	一莢内粒数 (粒/莢)	全莢重 (kg/10a)
行田在来	硫安	41.6(106)	58.6(107)	1.9(79)	691(109)
	LPS40	46.1(117)	67.6(123)	1.9(79)	695(110)
	無追肥	46.8(119)	40.4(74)	1.9(79)	567(90)
アオバタ	硫安	56.5(144)	40.6(74)	1.8(75)	532(84)
	LPS40	51.8(132)	36.8(67)	1.9(79)	602(95)
	無追肥	54.2(138)	33.4(61)	1.9(79)	424(67)
タチナガハ	硫安	39.3(100)	54.8(100)	2.4(100)	633(100)
	LPS40	46.2(118)	39.6(72)	2.5(104)	540(85)
	無追肥	45.2(115)	46.3(85)	2.4(100)	546(86)

枝豆用在来大豆の追肥資材は、行田在来の場合、中耕・培土時に LPS40 を施肥することで稔実莢数が増加し、慣行の追肥体型と同等の収量が得られる。

(農林総合研究センター 農産物安全・土壌担当 TEL 048-521-9461)



①：行田在来の場合、莢肥大期(+20日)における根粒由来の窒素吸収量は硫安(化成肥料)で低下するが、LPS40(被覆尿素)では抑制されない。